

科目名	日本語・コミュニケーション専門セミナー（留学生対象：日本語スキル）Ⅱ						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	3年次	単位数	2単位
教員名	渡辺 史央						

授業概要／Course outline

本授業では、日本語と母語・母文化を比べながら、日本の言葉や文化の特徴について考える。多文化共生や異文化理解、方言、翻訳や文化翻訳といったテーマを取り上げ、アニメやドラマ、SNS表現などの身近な資料を使って、日本語表現が文化とどのように関わっているかを学ぶ。日本語非母語話者としての視点を活かし、比較や翻訳の活動を通して、文化的な意味を分かりやすく説明し、発信する力を身につけることを目標とする。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

- ・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション）
各自が調べてきたことについて、プレゼンテーションをし、意見交換をする。
- ・ICTを活用した授業（形態：クリッカー、タブレット端末、スマートフォン等を活用した双方向型授業）
Moodle等を用いて資料配布・課題提出・フィードバックを行う。スマートフォンやタブレット端末を活用してSNSやウェブ資料の収集・分析を行い、スライド作成ソフトを用いた発表活動やオンデマンド発表動画の作成を行う。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 ガイダンス・比較と文化翻訳の視点

授業の目的、進め方、評価方法を確認し、母語比較および文化翻訳の基本的な考え方を導入する。

第2回 多文化共生と日本社会の言語使用

行政資料や報道を用いて、日本社会における多文化共生の現状と日本語使用の課題を分析する。

第3回 異文化コミュニケーションの基礎

高文脈・低文脈文化などの理論を用いて、日本語コミュニケーションの特徴を整理する。

第4回 方言と標準語の文化的意味

日本の方言と標準語の使用場面を分析し、言語と社会的イメージの関係について考察する。

第5回 翻訳と文化翻訳の基礎 ※「対話シート」実施

直訳と意訳の違い、文化翻訳の概念を学び、翻訳時に生じる意味の調整について検討する。

第6回 アニメ・ドラマ・SNS表現の文化分析

映像資料やSNS表現を用いて、日本語表現に含まれる文化的意味や価値観を分析する。

第7回 個人テーマ設定と調査計画作成 ※「対話シート」

各自の研究テーマを確定し、分析対象、資料、比較観点を整理する。

第8回 日本語資料の収集と整理

日本語側の表現資料を整理し、分析用データとして分類・整理する。

第9回 母語資料の収集と比較分析

母語側の資料を整理し、日本語との違いや共通点を比較分析する。

第10回 中間発表（比較・翻訳案共有）

調査途中の成果を発表し、意見交換を通して研究内容を改善する。

第11回 文化的意味の整理と考察

比較結果をもとに文化的背景や社会的意味を整理し、考察を深める。

第12回 最終発表構成作成

最終発表の構成を設計し、論理展開と説明構成を整える。

第13回 発表リハーサル ※「学習成果実感調査」実施
発表練習を行い、表現や構成の最終調整を行う。

第14回 まとめ・学修成果整理 ※「学習成果実感調査」
学期全体を振り返り、学修成果を整理する。

★オンデマンド：最終発表を代替授業とする。

事前・事後学修／Preparation and assignments

※各授業に対する事前事後学修は、約180分を目安とし、合計で2700分程度とする。

第1回 ガイダンス・比較と文化翻訳の視点

事前学修：比較研究や文化翻訳に関する基礎資料を読み、基本概念を把握する。

事後学修：自身の関心分野を整理し、本学期に取り組む研究テーマ案を複数作成する。

第2回 多文化共生と日本社会の言語使用

事前学修：多文化共生に関する日本の資料やニュース記事を調査する。

事後学修：母国社会の状況と比較し、日本との相違点や共通点を整理する。

第3回 異文化コミュニケーションの基礎

事前学修：異文化場面で誤解が生じた経験を振り返り、具体例を整理する。

事後学修：日本語コミュニケーションの特徴について自分の言葉でまとめる。

第4回 方言と標準語の文化的意味

事前学修：母語における方言や地域差について調査し、特徴を整理する。

事後学修：日本語と母語の方言使用の違いについて文章で比較する。

第5回 翻訳と文化翻訳の基礎

事前学修：翻訳が難しいと感じた日本語表現を複数収集する。

事後学修：母語への翻訳案を作成し、その難しさや工夫点を整理する。

第6回 アニメ・ドラマ・SNS表現の文化分析

事前学修：指定された映像資料やSNS事例を視聴・確認する。

事後学修：特徴的な表現を一つ選び、母語との違いを整理する。

第7回 個人テーマ設定と調査計画作成

事前学修：テーマ案と分析対象の候補をまとめる。

事後学修：テーマを最終決定し、資料収集を開始する。

第8回 日本語資料の収集と整理

事前学修：日本語資料を収集し、分類の準備を行う。

事後学修：収集資料を整理し、分析用データを作成する。

第9回 母語資料の収集と比較分析

事前学修：母語側の対応表現や事例を整理する。

事後学修：比較結果を文章で整理する。

第10回 中間発表（比較・翻訳案共有）

事前学修：中間発表用スライドを作成する。

事後学修：フィードバックを反映し、分析内容を修正する。

第11回 文化的意味の整理と考察

事前学修：分析結果の要点を整理する。

事後学修：最終発表構成案を作成する。

第12回 最終発表構成作成

事前学修：発表構成案を完成させる。
事後学修：スライド作成を進める。

第13回 発表リハーサル

事前学修：発表練習を行い、時間配分を確認する。
事後学修：資料と原稿を修正する。

第14回 まとめ・学修成果整理

事前学修：学修内容と成果を整理する。
事後学修：オンデマンド発表用の資料および原稿を最終調整する。

★オンデマンド：最終発表

事前学修：発表動画を作成し、提出準備を行う。
事後学修：他の受講生の発表を視聴し、学修成果を振り返る。

授業の到達目標／Expected outcome

1. 日本語と母語・母文化を比較し、言語表現や文化的意味の違いを分析・説明できるようになる。
2. 翻訳および文化翻訳の基礎的な考え方を理解し、日本語表現を他言語・他文化の視点から捉え直すことができるようになる。
3. 調査・比較の成果を日本語で論理的に整理し、発表やレポートを通して分かりやすく発信できるようになる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- | | |
|-------|-----------------|
| ・ 思考力 | 専門知識・専門技能 |
| ・ 主体性 | 【外国語学部 アジア言語学科】 |
| ・ 創造性 | ・ 言語知識 |
| | ・ 言語的スキル |

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・ 本授業は少人数セミナー形式で行うため、毎回の出席と積極的な参加を求めます。
- ・ 日本語と母語・母文化の比較や翻訳活動を行うため、事前学修を行い、準備をして授業に参加してください。
- ・ 個人プロジェクト形式で調査・発表を進めるため、授業外でも計画的に学修を進めることが必要です。
- ・ 映像資料、SNS、オンライン資料を使用する場合は、著作権や引用ルールを守り、出典を明記してください。
- ・ 発表やディスカッションへの積極的な参加も評価の対象になります。
- ・ AIツールは学修の補助として活用できますが、翻訳結果や文章をそのまま提出することは認めません。必ず自分の言葉でまとめてください。

評価方法／Evaluation

発表40%、調査プロセス（課題提出等）30%、授業参加およびディスカッションへの貢献30%を総合的に評価する。

教 材／Text and materials

授業中に配布およびMoodleで提示します。

質問や相談の方法／Instructor contact

授業に関する質問や相談がある場合は、授業の前後の時間やオフィスアワーを利用してください。